



本プロジェクトのある福岡の大名界隈は、飲食店・物販店・美容室といった様々な商業プログラムが、日本でも有数の、巨大な規模で展開されている。それにともない、建築・インテリア・看板・ファッションといった都市を形作る「視覚的要素」も、地域特有の複雑な地割と相まって、多種多様なデザインが比較的小さなスケールで用いられている。

典型的な、近代アジアの商業地における風景である。この場所で30年間、変わり行く「大名」を形作る一翼を担ってきた不動産会社の、1階での店舗・オフィス物件の仲介業務を主とした、新規店舗をデザインするにあたって、

1. 都市の持つコンテクストとインテリアデザインを断絶するのではなく、関係性を構築することで、新しいデザイン手法を確立すること。
 2. クライアントの良質な業務形態を考慮して、利用する人々を含めたインテリア全体を都市に対する広告→サイン＝インテリアとすること。
 3. 物件案内等の実用性も兼ねた、インスタレーションとしての「地図」の、情報としての新しい表現方法を考案すること。
 4. 完成後も、広告プログラムの変更に対応できるフレキシビリティを確保すること。
- を主眼とし、設計を行った。

1. 都市との関係性 Interaction

外部で展開される、近代アジアの雑然とした風景の持つ光や色彩と、内部のBusiness Spaceで展開されるシーンが、Installation Spaceのメタルパネルに互いに映り込み、融合し、時間ごとに変化していく。それらが相まって、都市を形作る「不動産ビジネス」の背景を形成していく。

2. サイン＝インテリア Sign＝Interior

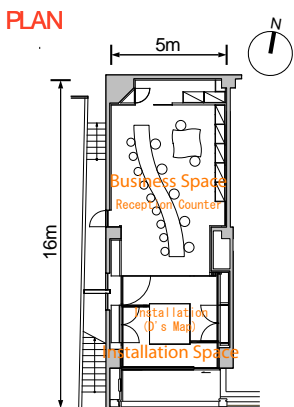
Business Spaceは、白い曲線を基調とし、都市の持つ喧騒との間に敢えて「距離」を生じさせることで、Business Spaceでのスタッフや顧客の持つ動き、表情を街路に対して美しく際立たせる。そして閉店後も、Installation Spaceが都市へ異なるサインを発し続けていく。

3. インスタレーションスペース Installation Space

平面情報に過ぎなかった地図の持つ構成要素（道路・河川・敷地・建物・・・）を分解し、それらを等価に扱いつつも立体的に積層させていく。都市を組み換えていくクライアントの業務をシンボリックに表現すると共に、地図の構成要素の関係性を変換し、「都市」を再定義する。

4. 広告効果 Advertising Effect

クライアントの持つ電柱看板と、Installation (D's map) をマーキング等で連動させ、人々の意識の中の「地図」に新しい指標を与えることや、Installation Spaceを若いアーティストなどに表現の場として与えることで、新しい形式の広告効果を派生させる。





<h1>Daio</h1> <p>ESTATE BANK</p> <h2>renewal project</h2>	
所在地	福岡県福岡市中央区大名
用途	不動産業オフィス
店舗面積	82.90㎡ (25.07T)
竣工	2003年3月
施工	ワールド産業株式会社
	有限会社 小野工芸
	九州ネオン電機株式会社

